

【介護予防教室の課題】

- ・受動的な参加者が多い。
積極的かつ能動的な参加者が少ない。
- ・対象者の年齢層に幅がある。
- ・様々な教室を開催しても、参加者が毎回同一。
ごく一部の高齢者にしか、予防プログラムを提供できていない。
- ・教室終了後、地域の中での介護予防に繋がっていない。地域での活動の場が作れていない。
- ・参加者の追跡調査等も継続できていない。

【課題改善策】

- ・対象者の幅がある事から、レベルに合わせた多様なプログラムを準備する。また、対象者が楽しみながら積極的かつ継続して介護予防に取り組めるようプログラムを組み立てる。
- ・病院や包括など関係機関との連絡を図り、対象者の確保や受け入れ体制を整えていく。
- ・行政担当者視点で事業を組むことは必要であるが、住民・高齢者目線でプログラムを組むこと。教室終了後も、自ら進んで、地域で継続して介護予防に取り組めるように、地域診断を元に通いの場やサロン等の環境整備をしていく。

【実施した結果】

- ・今年度中にできたことは、対象者の幅に合わせた多様なプログラムの展開を組み始めたこと。
- ・改善に向けた取り組みはまだまだ進められていない現状である。
今年度の課題及び改善策を踏まえて、次年度の事業計画へ反映していく。

【介護予防教室の写真】



【介護予防教室 参加者からの声】

- ・教室に参加出来ることがうれしい
- ・教室参加を機に、外出の機会が増えた
- ・継続的に通える場所を作って欲しい
など

【スタッフからの声】

- ・自己変容を促すことは難しい。
時間と工夫を要する。